

芦屋中央病院建設工事基本設計（概要版）

鳥瞰イメージ図



総病床137床(現行と同じ)

一般病床	90床
(内訳:内科45床、外科45床)	
療養病床	32床
緩和ケア病床	15床

■ 建築概要

・ 敷地地番	福岡県遠賀郡芦屋町大字山鹿282-2外
・ 敷地面積	約22,630㎡
・ 延床面積	約12,000㎡ (E V棟を含む)
・ 構造	本体棟：鉄筋コンクリート造 5階建 E V棟：鉄骨造 2階建
・ 駐車場	約300台（身障者用4台含）

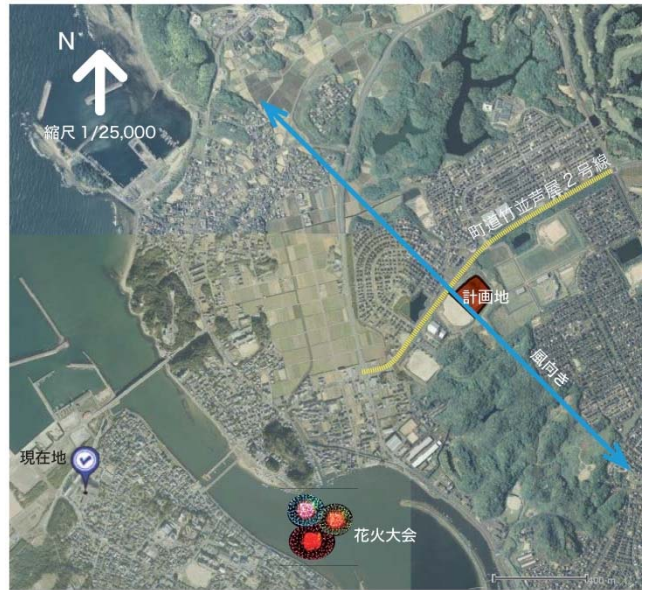
基本方針

平成26年2月の「町立芦屋中央病院新病院基本計画」における、施設整備計画基本方針に基づき、基本設計の基本方針を以下のように定めました。

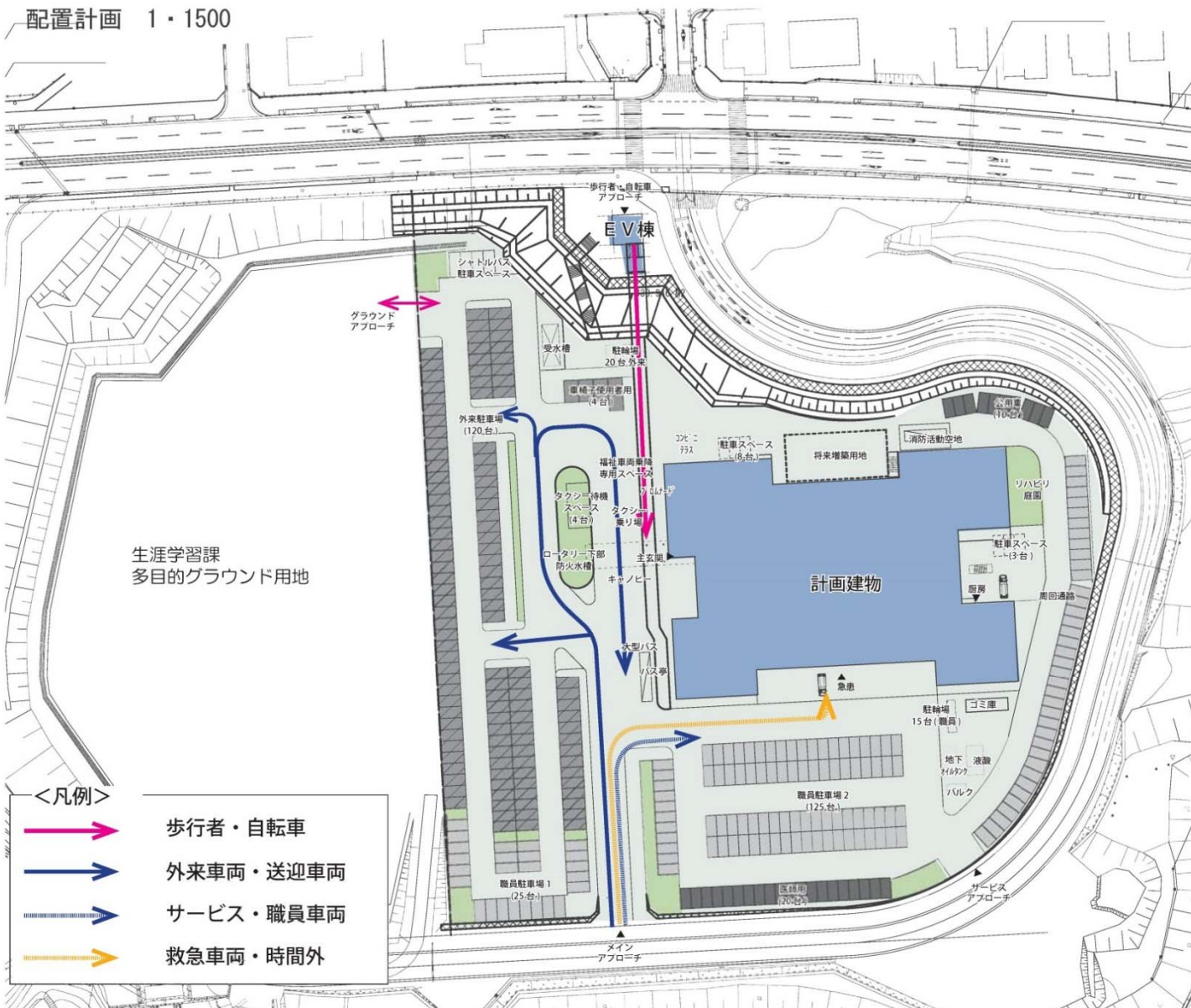
- (1) 地震等の災害時においても町内の災害拠点施設として求められる機能を維持することが出来るよう、水、電気、ガスなどのライフラインを確保します。
- (2) 豊かな自然環境や住宅地が広がる高台の立地条件に配慮し、わかりやすく印象的な外観とし、また将来の施設拡充および建て替えを考慮した配置および動線を計画します。
- (3) 自然採光や自然換気など、自然エネルギーを活用した施設整備により、省エネルギー化を目指し、地球環境の保全に配慮します。
- (4) 地域に根差した医療を中心とした病院機能を十分に発揮するため、判りやすく機能性や利便性に優れた部門構成と諸室配置を行います。
- (5) 来院するあらゆる人々に快適な医療環境を提供できるバリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れます。
- (6) 健全な病院経営に貢献するために、建設および維持管理コストの低減に努め、エネルギー部門の変更や拡張、将来の医療制度の変化や医療機器更新等に柔軟に対応できる計画とします。

新病院計画地は、前面の竹並・芦屋2号線との高低差が約11mあり、新しく町の建設する外周道路によって病院敷地入口へと導く計画となります。

- ① 敷地入口にて、利用者と職員及び救急・物品供給の経路を分離し、安全性に配慮します。
- ② 外来駐車場は、ユニバーサルデザインガイドラインに準じたゆったり駐車スペースを採用し、利用者の使いやすい計画とします。
- ③ 建物外周に構内道路を確保し、消防用活動空地や放射線科の将来の機器入れ替えの余地を確保します。
- ④ 歩行者の主要道路からのアプローチに配慮し、エレベーター棟を設置、エレベーター棟から病院まで連続する屋根を設け、雨天時の通行に配慮します。この連続する屋根は、病院玄関前の車寄せとしても利用する計画です。
- ⑤ 構内道路や、病院前ロータリーは、巡回バスやタウンバス等の構内乗り入れを想定した計画とし、バス停用のバスカットを計画します。



配置計画 1・1500





階層構成

3-4階に病棟機能を固めることで、外来部門や管理部門などその他の部分と明快に分ける計画です。

病棟は1フロアに2病棟を配置することにより、低層型の病院とし、病棟機能の一部を2病棟で共有することで、スペースの合理化を図ります。また、新規導入予定の緩和ケア病棟は眺望がよく、屋上庭園に面する4階に配置します。なお、地下にはピットを設け、設備スペースとして利用します。



階層構成図

個室的多床室（一般病棟）

一般病棟の4床室は、個室的多床室を採用します。それぞれのベッドサイドに1ヶ所ずつ窓を設け、眺望や採光、個々のプライバシーに配慮した快適な療養空間となるよう計画します。



災害対策

災害時においては、地域の被災者救護、機能維持を目的にコストも含め、運営上過度な負担とならない合理的な構造、設備計画を目指します。

災害時の機能維持の為、ライフラインの「多重化」と燃料・物資の備蓄により、一定期間の自立運営を可能にします。非常用自家発電のほか、ガス設備については、ボンベ等による仮設供給ラインを確保することで、厨房や給湯用熱源への配管、供給を行います。

また、透析部門は、災害発生時から、災害時情報ネットワークにより、受け入れ先の医療機関が決まるまでの一定時間（一日分：30～32床1クール）、透析部門が運営できるように、受水槽容量と非常用自家発電機の容量を見込む計画です。



【1 階平面計画方針について】

1 階は病院の顔となる外来部門や放射線科、送迎や搬入動線に配慮してリハビリ科、栄養科を配置しています。2 階に専門外来などを配置しているため、1 から 2 階をつなぐエレベーターと吹き抜けを計画し、視覚的にも 2 階との連携を高めています。

① 地域包括ケアの推進

地域包括ケアの取り組みを推進するため、総合待合の前に地域医療連携、訪問看護、居宅介護支援、訪問リハビリ部門を結集して、地域との連携を強化します。

② 受付カウンターの設置

図の赤丸の部分に患者さんの受付及び問診のためのカウンターを設置し、患者さんの案内と誘導をコントロールします。

③ 通所リハビリの開始

リハビリテーション科には、短時間通所リハビリを新設いたします。通所リハビリとは、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、利用者が通所リハビリ施設（病院）に通い、食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練や口腔機能向上サービスなどを日帰りで受けるものです。

④ 外来化学療法室の設置

ゆったりと治療できる、リクライニングチェアを設置した化学療法専用の室を新設します。

⑤ 放射線科に MRI の設置

現在の放射線検査機器に加え、さらに精密な画像診断が可能な MRI を導入します。

⑥ コンビニの設置

入院患者の生活用品や外来患者の食事など、品揃えが豊富なコンビニを設置します。また、イートインスペースを設け、病院内の憩いの場とします。



【2階平面計画方針について】

2階西側には外来機能の一部である専門外来のほか、透析センター、健診センターを配置しますが、1階と2階をつなぐエレベーターと吹き抜けを配置し、視覚的にも1階との連携を高めます。また、東側には、病棟との連携を重視する手術部門や薬剤部、医局などの管理部門を配置しています。

①専門外来の形成

泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科は1科に対して1室を配置します。

②薬剤部

院外処方への切り替えのため、薬剤部は主に入院業務へと移行しますが、一部の院内処方及び持参薬の監査窓口として、専門外来に隣接し運用します。

③腎センター

1クール最大32ベッドの治療が可能となります（現在30ベッド）。

④健診センター

1室にて基礎健診が受診可能な健診センターを新設します。レントゲン撮影については、配置を上下階とすることによってエレベーターのみでの移動とし、スムーズな受診を可能としています。

⑤手術室

手術室1は主に整形外科手術に使用するバイオクリーンルームにします。これにより人工関節の手術など清浄度の高い手術が可能になります。手術室2は一般外科手術に対応します。

⑥大会議室

可動間仕切りにて2室に分けることを可能にし、利用者の数に応じて会議室の大きさを変更できるようにします。



【3階平面計画方針について】

3階は、一般病棟の2つの病棟（内科系病棟、外科系病棟）90床を1フロアにまとめることで、浴室など一部の機能を2つの病棟で共有し、省スペース化を図ることとしています。個々のプライバシーや採光などの環境面に配慮した個室的多床室を病棟の特徴とし、快適な療養空間となるよう工夫しました。

- ①一般病棟（内科45床〔個室9室〕 / 外科45床〔個室9室〕：個室率20%）
- ②ワンフロアに2病棟を配置することで、機械浴やカンファレンスルーム、食堂などを共有し、病棟の省スペース化を図ります。
- ③スタッフステーション前の廊下を職員専用廊下とすることで、見守り度の高い患者さんの観察室エリアを設けることとしました。なお、観察エリアは夜間の徘徊対策として、廊下に扉を設けます。
- ④病棟端部と食堂に面して避難用バルコニーを設けます。

＜個室的多床室のイメージ＞





【4階平面計画方針について】

4階は、療養病棟32床と緩和ケア病棟15床の2病棟を1フロアにまとめることで、浴室など一部の機能を2病棟で共有し、コンパクトで使いやすい病棟となるよう工夫しています。また、緩和ケア病棟15床を新設し、居室はすべて個室としています。

- ①療養病棟（32床〔個室4室〕）：個室率12.5%
- ②緩和ケア病棟（15床：個室率100%）
- ③療養病棟の32床は、4床室を基本としています。スタッフステーションから見通しの良い位置に一部個室を設け、看護師の見守りが可能な観察室としています。
- ④緩和ケア病棟は主に、がん患者などの身体的・精神的な苦痛をやわらげるケアを行います。患者をサポートし、付き添うための家族宿泊室や、ボランティアスタッフ室を設けています。
- ⑤両病棟ともに、食堂から屋上庭園に出ることのできる計画とし、食堂からの眺望を配慮しました。
- ⑥屋上庭園やメンテナンスバルコニーを設けることで、火災時の屋外一時避難スペースを確保し、災害時の安全に配慮しています。

＜緩和ケア食堂イメージ＞



＜屋上庭園イメージ＞





【5階平面計画方針について】

最上階である5階には、洗濯室等の一部の諸室と霊安室、設備機械室を配置しました。屋上屋根部分も効率よく利用する計画としています。

①靈安室

霊安室は、「おだやかに最後を迎え、お別れをできる場を設ける」というコンセプトのもと、最上階に配置しました。

②洗濯室及び清掃職員控室

職員の使用する洗濯室（大型乾燥機室）は5階とし、屋上に物干しスペースを確保します。

③倉庫（書庫）

各部門に十分な倉庫を配置しないため、共用の書庫、倉庫を設け、共用の医学書その他各部門の保管書類置場として活用します。

＜霊安室イメージ＞

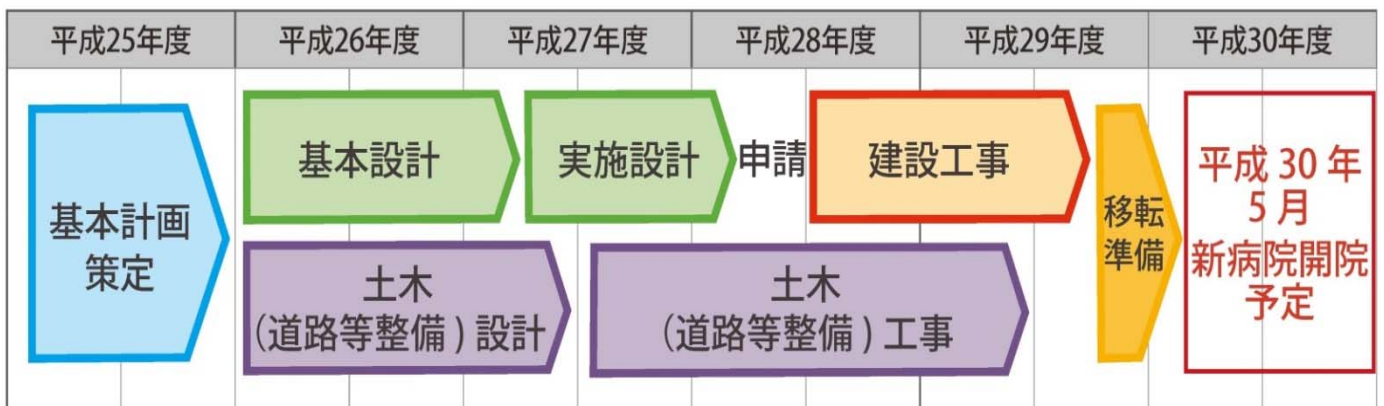


事業費概要

(単位：百万円)

項目	内容等	概算事業費
1. 病院建設に係る費用		4,525
設計等委託費	基本設計・実施設計・工事監理等	113
建築工事費	延床面積：12,000㎡とする	4,320
その他費用	測量・地質調査・法面工事等	92
2. 土木（道路等整備）費	周辺道路整備など（町整備分）	435
3. 移転費用等	引越費用・MRI等購入費	280
建設事業費計		5,240

整備スケジュール



平成27年7月策定

【問い合わせ】

地方独立行政法人 芦屋中央病院

〒807-0101 福岡県遠賀郡芦屋町幸町 8-30

TEL：093-222-2931（代） FAX：093-222-2176